

養護教諭との連携に対する一般教諭の認識

○大下里¹・橋本博文²

(¹安田女子大学心理学部心理学科・²安田女子大学心理学部ビジネス心理学科)

問題と目的

近年、困難度を増しつつある児童生徒への指導上の課題に対応すべく、学校教職員の役割を明確にすると同時に、チームとしての効果的な連携の在り方を探求する必要があるとされている。組織的な連携や支援体制を構築・維持するうえで鍵を握るのは、学校内における「コーディネーター役」の存在であるが（中央教育審議会，2015）、本研究では、将来的にそうした存在を担い得る養護教諭に焦点をあわせる。これまで、養護教諭には援助チームにおける重要な構成メンバーとしての役割があることが指摘されてきた。そうした指摘を行ううえで、養護教諭がその役割をどのように認識しているかに関する研究はなされているが（例えば，秋光・白木，2010）、養護教諭をコーディネーター役とする連携・支援の在り方に対して一般教諭がどのように認識しているかを分析している研究は少ない。本研究の目的は、問題を抱える児童生徒に対する養護教諭との連携について、一般教諭がどのように認識しているのかという点を検討することにある。

方法

分析対象者 公立小・中学校の一般教諭 360 名（女性 96 名）。

各連携への評価 1) 養護教諭からの支援なし（一般教諭の支援のみ）、2) コーディネーション型支援、3) コンサルテーション型支援、4) コラボレーション型支援の特徴について図と簡潔な一文を用いて調査対象者に示し、それぞれの支援の在り方が児童生徒に対してどの程度有効かを 7 件法（-3=「まったくそう思わない」、+3=「非常にそう思う」）で評定させた。一般教諭が現在勤務している学校種や学校の規模についても回答を求めた。

結果

養護教諭との連携に対する一般教諭の評価の平均値を算出するかたちで見比べるとともに、その値と勤務する学校種（小学校・中学校）の関連を分析した。その結果、一般教諭はコーディネーション型支援やコラボレーション型支援を有効な支援として評価している一方、コンサルテーション型支援については有効な支援であると評価していなかった。この

結果は、一般教諭が養護教諭からの援助それ自体は有効な支援につながると評価していないことを示唆するものである。このコンサルテーション型支援への評価については、一般教諭が勤務する学校種間で有意な差（ $t(358)=3.23, p<.01$ ）が示されている。すなわち、小学校教諭はコンサルテーションを有効な支援であるとは捉えていない（ $M=0.00$ ）一方で、中学校教諭はむしろ「有効ではない」支援（ $M=-0.44$ ）として捉える傾向すら伺える（ゼロからの有意性検定： $t(135)=3.71, p<.001$ ）。

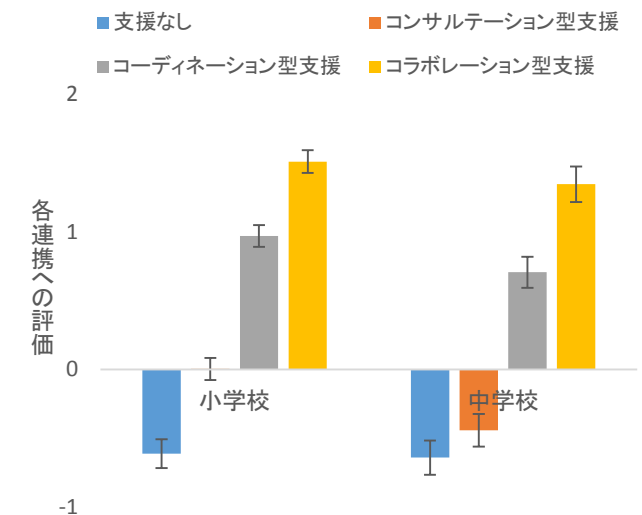


Figure 1. 各支援に対する校種別評価

考察

本研究の結果は、コーディネーション型支援ないしコラボレーション型支援が有効な支援であると評価されることを明らかにするものであったが、実際には、養護教諭がコーディネーション行動に参加していない現状も示唆されており（瀬戸・石隈，2002）、養護教諭による援助をいかに有用な資源として活用していくのかについては、いまだ多くの課題が存在している。しかし、これらの支援に対する一般教諭の肯定的評価は、今後の可能性を示唆するものでもある。一方で本研究の結果は、一般教諭に対するコンサルテーション型支援への否定的評価を示唆するものでもあった。一般教諭の養護教諭による援助の評価を低める心理・社会的要因を詳細に検討し、教職員の効果的な連携の在り方を模索していくことが今後の課題である。